

安全・安心科学技術の国際展開

資料 2-6
科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会
安全・安心科学技術委員会(第30回) H23. 10. 25

平成24年度要求額:50百万円(新規)

目的

科学技術協力協定下の「日米安全・安心科学技術協カイニシアティブ」の協力枠組み等をふまえ、関係省庁や研究機関等との連携のもと、犯罪・テロをはじめとする様々な脅威から安全な国民生活を確保するための協力を推進する。

実施内容

平成18年5月 第10回日米合同高級委員会において、「日米安全・安心科学技術協カイニシアティブ」の協力枠組みを構築。

【協力分野】

- ・日米バイオディフェンス研究シンポジウムの開催
- ・爆発物及び化学剤に関する検知技術、爆発モデリング及びシミュレーション技術
- ・健康被害や重要基盤への影響を含む大量破壊兵器の脅威に関する課題
(化学剤、放射線・核物質への対応手段)
- ・過酸化系爆発物検知技術

…
(計22分野)

関係者の交流や情報が制限
されやすい分野

研究開発成果の国際的な実用化の推進

犯罪・テロ対策分野について、国内における実績を重ねた研究開発成果を海外に展開すべく、米国の認証基準・規格及び実用段階の有効性・耐用性に関する現地調査や、最新技術情報の提供および収集、共同研究や人的交流の促進を行う。

○研究開発成果の例



容器内液体爆発物
検知技術の実用化
(大阪大学)

ウォークスルー型
爆発物探知システム
(株式会社日立製作所)



日米バイオセキュリティシンポジウムの開催

生物テロ等の人為的なものから各種感染症の蔓延まで、幅広い生物分野の脅威に対し、公衆衛生措置や医療対策による被害軽減方策も視野に入れた専門家会合を開催し、日米における最新の情報を収集・分析し、課題解決に向けた検討を行う。

○開催実績

- 第1回 平成19年6月(米国)
- 第2回 平成20年9月(米国)
- 第3回 平成21年10月(日本)
- 第4回 平成22年10月(米国)
- 第5回 平成23年11月(米国) <予定>

知・技術を集約したネットワーク構築

国内における最新の研究開発動向等を把握するため、研究会やセミナーを開催し、関係省庁、地方自治体等と研究機関等のコーディネートを行う。

日米ニーズ

【日本側】米国の空港や鉄道等で使用する保安機器の認証にあたり、その基準・規格を把握することで、日本国内において実績のある研究開発成果を海外に展開する上で非常に重要。また、我が国の技術が国際的な信頼を得るため、国際的な基準を念頭に研究開発を推進していく必要がある。
【米国側】今後、農作物病対策や環境に適用できる機器の開発を開始するにあたり、本分野における技術を活用したアプローチを検討している。